



ひな い 2月

発行/大館市立比内公民館 大館市比内町扇田字庚申袋8 Tel 43-7141 fax 55-3652

新春書初め会



新春の1月4日、恒例の書初め会を開催しました。書きぞめは平安時代から伝わるといわれる大切な日本の風習で、比内公民館では、平成8年から始まり、今年で30年目。この日は6人の指導者を講師に迎え、小中学生13人と一般の方29人が参加しました。小中学生は学年ごとに設定された課題「げんき」「うまどし」「新しい時代」などの文字を条幅にしたためました。

高校生以上は、比内支援学校高等部木工班が加工した杉板に挑戦です。板に書くチャンスは少ないため、要望が多く、今年は25㍻四方の板に加え、25㍻×50㍻の板も準備しました。紙に書くのとは勝手が違い、苦労しながら筆を進めていましたが、とても味わいのある作品が出来上がり、皆さんとても満足している様子でした。

作品は2月15日頃まで公民館1階事務室付近に掲示しておりますので、ぜひご覧ください。



とんぶり 加工場見学会



流水で何度も流し、水洗いする



最初は乾燥したとんぶりを煮込む工程



最後は目視でごみを除去する

比内公民館では、12月20日(土)、1月17日(土)の2回、とんぶり加工場の見学会を開催しました。とんぶりは全国で大館市のみで生産されている作物で、その製造技術は、令和7年3月に国の無形民俗文化財として登録されました。

しかし、生産農家は現在8戸まで減少し、先行きが危ぶまれる状況。かつてはその加工技術は門外不出とされていましたが、本間均組合長は「そんなことを言っている場合ではない。広く知ってもらうことが必要」と加工場の見学会を引き受けていただきました。

参加者は1回目11名、2回目は12名と募集を上回る人数。遠く千葉県や京都からの参加者もあり、注目度の高さが伺えます。

加工は、三日間にわたる(煮込み、皮むき、水洗い、選別など)手作業で行われますが、見学は一日目と二日目の工程です。

煮込みを担当する川口さんは、齢80を超えるとんぶりマイスター。気象条件や乾燥とんぶりの状態に合わせて時間の調整が必要と、説明してくれました。

水洗い作業は、豊富な地下水で何度も行き、とんぶりの皮やごみなどを洗い流します。作業を体験した皆さんは、惜しげもなく何度も洗い流すよう指導され、「こん

なに流したらとんぶりが無くなってしまわない？」と心配する声も上がります。水洗い作業の最後には、ピンセットでごみを除去。素人にはとても発見できそうにありません。

この後、水分の除去や、ふるいの作業などを行い、出荷されるとのこと。

参加者は、丁寧な作業に感心し、とんぶりマイスターたちと笑顔で歓談し、見学会には大満足の様子です。ファンが増え、生産や加工にも興味を示す方が増えてくれるのを願っています。

雪下ろし注意！

今年の降雪量は、例年をはるかに上回る量になっており、屋根の雪を心配する方も多はず。しかし事故が多いのもこの季節。安全対策を心がけましょう！

- ① 命綱やヘルメットを着用すべし
- ② 作業は二人以上で行うべし
- ③ 軒下の雪は、作業後まで残すべし

編集後記

先日、九州まで出かけ、孫の顔を見るために関東方面にもよってきました。スタートは厚着の重装備、関東で1枚脱ぎ、九州でも一枚脱ぎと作戦を立てていたのですが、意外と全国的に寒く、九州でも雪がチラつく始末。それでも太平洋側は青空が広がり、我々からするとうらやましい限り。そんな環境から帰ってくると、自宅に近づくにしたがって白の圧力が強くなってきます。行く前に念入りに除雪をしたはずなのに、家の周りも屋根の雪もはるかにボリュームが増えた雪・雪・雪。春には本当に消えるのかしら？